NEWS LETTER

さらば炭化物！

クリーニングチューブによる洗浄

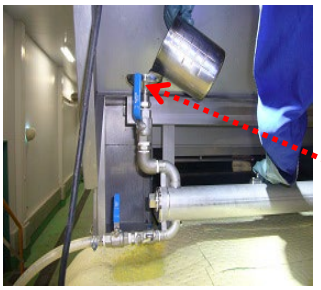
□RFに炭化物が多く、コンタミの懸念がある
□造粒状況が安定しない…
□内部の炭化物が蓄積し、供給量が不均一になるかも…

そんなときはクリーニングチューブによる洗浄をおすすめします

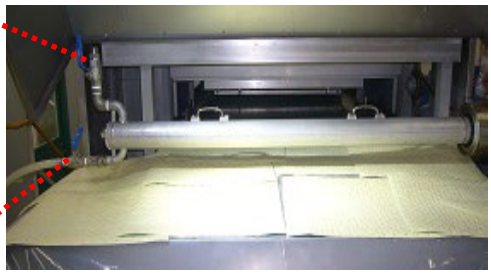
クリーニングチューブ参考写真
溶剤供給、排出部の取合変更可能です。
サービス側閉止板、エンドボルト等が含まれます。(写真外)

洗浄手順
①サービス側ベアリングユニット、
　アウターシェル、ミータリングバー取外し
②クリーニングチューブ取付け
③サービス側に閉止板取付け
④溶剤取出し部準備
⑤Zアダプター部（製品供給側）閉止板取付け
⑥溶剤投入口より溶剤投入（数時間放置）
　　※溶剤の選定は貴社にてお願い致します。
⑦廃棄溶剤取出し
⑧クリーニングチューブ取外し、各部洗浄

⑥溶剤投入



②クリーニングチューブセット



⑤製品供給側閉止板

④溶剤取出し準備

⑦廃棄溶剤取出し

洗浄実施の参考例です。
対象製品，使用溶剤にて効果は異なります。実施例は苛性ソーダです。

ご連絡お待ちしております！

www.ipco.com/jp
本社・工場：兵庫県神戸市西区見津が丘1丁目18 (〒651-2228)　TEL：（078）570-1401
関東支社　：横浜市港北区新横浜2丁目5番地14 (〒222-0033)　TEL：（045）472-5601